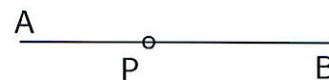


[02] 線分上の点Pから垂線を描く



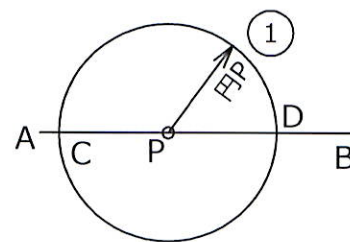
■用器画法は、定規、コンパス、曲線定規、補助道具を用いて図形を描画することです。
 ■用器画法の手法で、CADの操作方法とコマンドの使い方、作図補助機能の使い方を実践的に、効果的に習得できます。

[解答例] 02 線分上の点Pから垂線を描く

1) 線分AB上の点Pを中心として、任意サイズの半径で円Pを描く

《円P》 ①

線分ABと円Pとの交点をC、Dとする



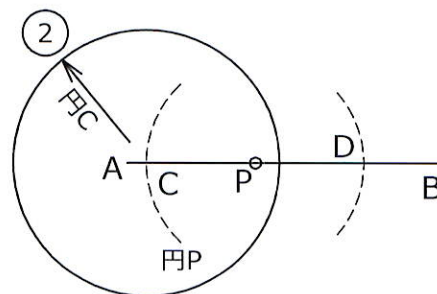
2) 交点Cを中心として、点Pより大きい任意サイズ半径で円Cを描く

《円C》 ②

3) 交点Dを中心として、円Cと同じ半径で円を描く

《円D》 ②

円Cと円Dとの交点を、E、Fとする

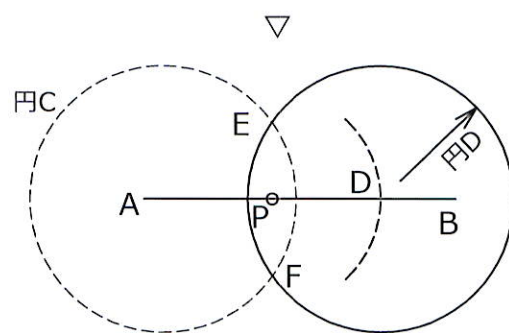


4) 交点E、交点Fの2交点間に線分EFを描く 《線分EF》 ④

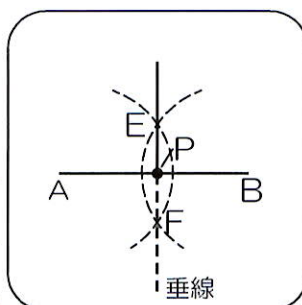
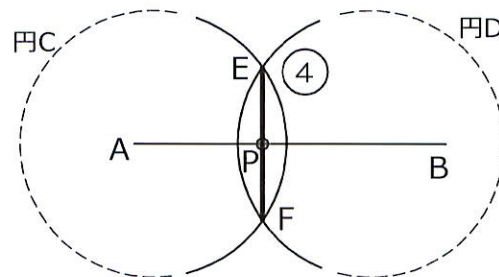
線分AB上の点Pを通過する垂線となる

[終了]

[Enter] キーまたは [Esc] キーを押す。



④



[コマンド]

線分

円

[作図補助機能]

近接点

交点